

ハメモ▽更生保護施設と保護司制度の先駆けになつたといわれるものは、浜松市東区出身の実業家金原明善と川村矯一郎らが1888年に設立した「静岡県勤出獄人保護会社」(現・静岡県勤善会)。更生保護女性会のルーツは83年、大阪の女性が行く当て

のない子を自宅で養つたこととする。1964年、全国更生保護婦人協議会が発足。2003年に二度目の改称で現在の日本更生保護女性連盟となつた。県内組織は1963年、8地区会員600人により県更生保護婦人会連盟を発足した。



富士宮地区更生保護女性会は県内全32地区の先駆けとして1957年秋に結成し、60周年記念大会を今春開いた。「更女(こうじょ)つて何、と最初は思つたの」。富士宮市の専業主婦小林えり子さん(63)は「先進地」にいながら、その存在すら知らずに地域で勧められるまま53歳で入会した。周囲を見れば人生の先輩ばかりで、数々のカルチャーショックも受けた。しかし、今は、歴史の重みと活動の意義をかみしめる。

記念講話で登壇した元会員井出信子さん(86)によると、終戦後、都市部は焦土と化し、戦災孤児は進駐軍に食べ物をねだり、盜みで飢えをしのいだ。覚醒剤など薬物中毒が社会問題化し、目標を失い「ヒロポン中毒」に陥る若い復員兵も少なからずいたという。49年、犯罪者予防更生法(2008年更生保護法施行に伴い廃止)

③ 60周年



佐野京さん
(1910年、
家族提供)

非行少年の傍らで 更生保護女性会

止)が制定され、更生保護制度が成立し、更女は少年保護など戦前の女性団体を前身に全国に結成された。同地区で奔走したのは保護司の故佐野京さんら。戦前からの婦人会組織を活用し、更生保護の活動上、守秘義務は必要として保護司による推薦制に切り替えた。

初代会長を務めた佐野さんは1893(明治26)年生まれ。結婚して教職を辞した後、婦人会、民生委員も引き受け、地域に尽くした。「ただ家庭内に閉じこもつて平々凡々と過ぐすだけでは教育を受けさせてもうな事があるならばそれによつて有意義な人生を送りたい」。葬儀での謝辞で遺

族が引用した生前の言葉だ。孫の嫁で、県更生保護女性連盟副会長の多知子さん(69)は「歩くのが早いおばあちゃん。行動する女性だったと思う」と懐かしむ。活動的な先人が地元で切磋あわせた。活動的なかつり開いてきた更女だったが、小林さんにとっては、入

会後、研修を何度受けても、施設「少年の家」(静岡市葵区)で夕食作りに参加し、帰

る家庭のない少年を初めて目にした。「家庭は大事。私は笑顔でいよう」とあらた

れて気付かされた。世に知られなくて、人に尽くせた。転機は3年目。更生保護

施設「少年の家」(静岡市葵区)で夕食作りに参加し、帰

る家庭のない少年を初めて目にした。「家庭は大事。私は笑顔でいよう」とあらた

れて気付かされた。世に知られなくて、人に尽くせた。転機は3年目。更生保護

施設「少年の家」(静岡